

XX

[illegible]

石巻栄光教会宣教基本方針

石巻栄光教会は、主なる神と出会うイエス・キリストの体です。神様が愛している一人一人のかけがえのなさを思い出し、この世界を神様が大切にしていることを思い出す場所です。石巻栄光教会は、希望を生み出します。

私たちは、この社会の現実の中で生きています。教会の中だけでの満足にとどまらず、社会に生きる人々の痛みや苦しみ、あるいは楽しみを共にしていくこと、そして、悩みや不安を分け合って喜びに変えていく教会になることを願います。

また、一人一人の生き方を尊重するとともに、神様から一人一人に与えられている賜物を活かして、神さまと人を愛し、感謝しながら地域に仕えていく教会を目指します。



〒986-0854 石巻市大街道北2丁目12-3
電話/FAX: 0225-22-4090
ホームページ: <http://tohoku.uccj.jp/i-eikou>
メール: i-eikou@tohoku.uccj.jp
振替口座: 02280-8-2810
教会創立: 1887年9月25日

聖 日 礼 拝	毎週日曜日	午前10：30
早 朝 礼 拝	毎週日曜日	午前 7：30
交 わ り の 会	毎週日曜日	礼拝後
み言葉と祈りの会	毎週水曜日	午後 7：30

2025年度標語 『これは、人の意志や努力ではなく、
神の憐れみによるものです』

- ◎ 聖日礼拝を共に守りましょう。
- ◎ 日ごと聖書に聞き、祈りましょう。
- ◎ 家族・地域に福音を届けましょう。
- ◎ 平和を創り出すために働きましょう。

No.2511

主日礼拝式順序

2026年2月22日


 受付
司会
献金
奏楽

 礼拝当番は
礼拝堂に集まった人の中で
可能な方に担当いただきます。

前奏			
招きの言葉	[17] イザヤ書第60章1～2節	司会者	
讃美歌	34	一同	
祈り		司会者	
聖書	第一ヨハネ3章8節		
	(新約聖書444ページ)		
讃美歌	298 (1-2節)	一同	
お話し	「悪魔の働きを滅ぼすため」		
	川上直哉 牧師		
讃美歌	298 (3-4節)	一同	
献金		一同	
報告		司会者	
讃美歌	90 (3節)	一同	
祝福の祈り			
後奏			

*当教会では 着席のまま礼拝を守っています。
 *旧約聖書は前半(P.1502まで)、新約聖書はその後ろです。
 *献金の額はいくらでも結構です。持ち合わせがないときは次の機会に。

∞〇∞〇∞〇∞〇∞ お知らせ ∞〇∞〇∞〇∞〇∞

3月1日(日)に、川上牧師は休暇を頂きます。
 10時半からの礼拝は中澤宣教師が担当されます。

∞∞∞∞∞∞ 今週の集会 ∞∞∞∞∞∞

☆「御言葉と祈りの時」 2月25日(水)19:30～ 録画配信のみ

∞∞∞ 次週の予告 (3/1) ∞∞∞

☆ 主日礼拝 (お話：中澤竜生 宣教師)

[聖書]	ルカの福音書18章9-14節
[お話]	「受難節のはじまりに心を主へ向け直す」
[讃美歌]	29 聖歌498 88 [招きの言葉] 1
受付	礼拝当番は礼拝堂に集まった人の中で可能な方に担当いただきます。
奏楽	

∞〇∞〇∞〇∞〇∞ お知らせ ∞〇∞〇∞〇∞〇∞

✦今後の予定は以下の通りです

- ・2月22日(日) 日本基督教団仙台東教会 牧師就任式
- ・3月1日(日) 日本基督教団柴宿教会の礼拝担当(14時半～)
- ・3月6日(金) 涌谷教会にて世界祈祷日集会(13時半～)
- ・3月8日(日) 礼拝堂で聖餐式
- ・3月11日(水) 東日本大震災追悼記念礼拝(ワイス・メンズ・クラブ主催)

《 先週の集会統計 》

聖日礼拝	12人	み言葉と祈りの会	-
早朝礼拝	2人	聖餐式	-
月定献金		特別献金	
山口美紀子 (1-2月) 川上恵 (2月) 齋藤みや子 (2月) 石井龍子 (3月)		齋藤みや子・渡邊邦子 (聖餐式感謝) 齋藤みや子 (会堂修理) 川上恵 (YMCA研修会) 石井龍子 (国分洋助召天記念)	
席上献金	¥18,810		

週報別冊

2026年2月22日号

1. 教会宛に、以下の通信が届いています。

【日本基督教団石巻栄光教会関係】

- 「感謝状」(木村和弘・光枝さん) : 先週ギデオン協会の立場で御来訪くださったお二人から「先日はギデオン協会報告と証しを受け入れて下さり、ありがとうございます。また貴い聖書献金をお献げ頂き 心より感謝いたします。／ 幸いな昼食のお交わりもありがとうございます。なお一層貴教会の働きのためにお祈りさせていただきます」と、直筆で頂きました。
- 「ご案内」(日本基督教団仙台東教会牧師 佐々木玲哉先生) : 元クリスチャン教会である仙台東教会で2月22日に就任式が行われるにあたり、「教会の皆さんでお越しく下さるとのこと大変感謝です。今回の就任式は、事前に出席をとっておりませんので具体的な人数は分かりません。ただ、今回は中地区の教会と同信会系の教会にしか招待状をお送りしておりませんので、30人ほどかと思えます。ですので、石巻栄光教会の皆様でお越しく下さるのは全く問題ございません。／当日はよろしく願いいたします」と、連絡を頂きました。

【その他教会・団体関係】

- 「ほんのひろば」(日本キリスト教販売株式会社) : キリスト教書籍の書評誌です。昨年出版された『どうすれば赦せるようになるか』の書評を川上牧師が担当しています。
- 「CMIM」(マイノリティ宣教センター) : 「共に立つこと」(在日大韓基督教会館館長 申容燮=しんよんそぷ さん) 等が掲載されています。
- 「いのちに関する学習会」(WCRP 日本委員会女性部会) : 「行動できる地球市民を育てるために——沖縄での学びから、これからの私たちにできること」と題して、3月7日(土)13時半から、オンライン併用で、フィリピン研究者の辰巳頼子さんの講演が行われることの案内を頂きました。

2. 牧師動静

2月16日(月)

朝から仙台に行き、留学生労働者の支援の会議を主宰しました。

2月17日(火)

朝、石巻市役所に齋藤市長を訪問し、午後から日本YMCA同盟東日本スタッフ研修・福島研修会に帯同しました。

2月18日(水)

前日の続きで、研修会に帯同しました。

2月19日(木)

前日の続きで研修会に帯同した後、夕方と夜にオンラインの会議に参加しました。

2月20日(金)

休暇を頂きました。

2月21日(土)

午前中、仙台で講演会の司会をし、午後、仙台の講演会に参加し、夜、石巻市内での催事に参加しました。

- 先週の役員会で、次年度教会総会を4月19日(日)の礼拝後に行う事とし、その準備が始まりました。年度決算は予算通り守られたことを感謝しつつ、しかし、「あと年間30万円ほど」の支出削減か収入増がなければ教会は持続できない事が確認されました。また、礼拝の式次第について時間をかけて検討しつつ、まずは司会や奏楽などへの会衆参加を積極的に求めて行く事を決めました。

2月22日(月)～27日(金)

フィリピンでルイス・ソテロの研究隊に帯同して研究をしています。

2月28日(土)

朝、仙台に戻り、休暇を頂きます。

※牧師と面会をご希望される方は、どうぞ、ご遠慮なく教会のメール宛、ご連絡ください。上記日程を調整して、お会いしたく存じます。

共に立つということ——別子銅山からの問い

しん よん そふ
申 容 燮

マイノリティ宣教センター運営委員/在日韓国基督教會館(KCC)館長



さる10月、私の母校である韓国の神学大学院の学生たちが大阪を訪れました。限られた日程の中でしたが、愛媛県新居浜を一泊二日で訪問しました。目的は、新居浜で牧会しておられる在日大韓基督教會総幹事・鄭守煥(チョン・スファン)牧師にお会いし、在日大韓基督教會の歴史を学ぶこと、そして別子銅山の朝鮮人慰靈碑を訪ねることでした。

帝国主義時代、日本へ連れて来られ、強制労働の中で命を落とした朝鮮人のための慰靈碑は、日本各地に存在しています。別子銅山の慰靈碑は、2025年あらためて石碑と碑文が建立されたと聞き、私たちは現地を訪れました。山道を一時間以上進んだ先にあったのは、A4用紙ほどの小さな慰靈碑でした。その道沿いには、人の頭ほどの石が一定の間隔で並んでいました。

鄭守煥牧師によれば、その石の下には朝鮮人の遺骨が埋められていたとのこと。すでに二十体以上が発掘されましたが、まだどれほどの方々が眠っているのかは分かっていません。墓を掘ることも許されず、簡単に埋葬し、石を置いて印とするしかなかったのです。新しい慰靈碑のそばには、かつて使われていた木製の碑標も残されていたが、文字は風化し、ほと

んど判読できませんでした。

私が、日本で在日韓国・朝鮮人の方々と共に生きていと初めて思ったのは、2002年、小倉で行われた「日・韓・在日キリスト教青年研修」に参加した時でした。そこでも、石で示された朝鮮人の埋葬地を訪れました。説明を聞いていた在日青年たちが静かに涙を流す一方で、日本や韓国から来た私たちは、その姿に戸惑いを覚えていました。その光景は、今も忘れることができません。

牧師として、イエスが小さくされ、差別された人々と共に歩まれた姿に倣いたいと願ってきました。その日、私は「それなら、あなたもここで彼らと共にいなさい」と語りかけられたように感じたのです。

けれども、共に生き、共感することは簡単ではありません。助ける側と助けられる側ではなく、同じ場所に立つことの難しさを、今も日々感じています。それでも、誰かがそばにいることを、話を聞いてくれることを必要としているなら、イエスの弟子である私たちこそが、そこに立つべきではないでしょうか。

今日も、疎外され小さくされた人々の隣におられるイエスに従って歩みたいと願っています。